

第1回広島市総合計画審議会 会議要旨

1 開催日時 平成30年（2018年）2月5日 午前10時00分～11時30分

2 開催場所 大手町平和ビル5階 中区地域福祉センター大会議室

3 出席者

(1) 委員（25人中24人出席）

- ア 学識経験者 石田委員 海堀委員 小溝委員 中原委員 福田委員 藤谷委員
藤原委員 フンク委員 村上委員 山川委員 山田（知子）委員
山田（浩之）委員
- イ 各種団体の関係者 佐々木委員 田村委員（代理 谷田事務局長） 永野委員 西川委員
濱田委員 藤井委員 安森委員 吉田委員 渡部委員
- ウ 公募市民 梅田委員 大塚委員 若本委員

(2) 事務局（市）

広島市長（諮問後退席）、企画総務局長、企画調整部長、政策企画課総合計画担当課長、
政策企画課職員

4 議題

- (1) 会長、副会長の選出
- (2) 広島市総合計画の改定についての諮問
- (3) 広島市総合計画審議会の運営方針等について
- (4) 広島市総合計画の改定に当たっての基本的事項及び中核課題等の検討について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者

- (1) 一般傍聴者 2名
- (2) 傍聴者（報道関係） 1名

7 会議資料

- (1) 議事資料
 - ア 広島市総合計画審議会の運営方針等について
 - イ 広島市総合計画の改定に当たっての基本的事項
- (2) 参考資料
 - ア 広島市総合計画の体系と主な部門計画等の関係
 - イ 広島市に関する基礎的データ
 - ウ 広島市総合計画（現行計画）の冊子
 - エ 第5次広島市基本計画に基づく取組の概要等について
 - オ 広島市総合計画審議会委員名簿
 - カ 広島市総合計画審議会規則
 - キ 諮問書（写し）

8 発言の要旨

〔開会〕

〔市長あいさつ〕

松井市長

第1回広島市総合計画審議会の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から我が市の行政推進に多大な御支援、御協力をいただいております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。そしてこの度、大変お忙しい中、広島市総合計画審議会の委員を快くお引き受けをいただきまして、ありがとうございます。

さて、本市では、平成 21 年 10 月に議会の議決を経て、広島市基本構想と第 5 次広島市基本計画からなる総合計画を策定しており、これに基づく総合的かつ計画的なまちづくりを推進しているところです。こうした中、第 5 次広島市基本計画の計画期間が平成 32 年度で満了することから、今後も時代の潮流や社会経済情勢の変化を見極めながら、引き続き、総合的かつ計画的な行政運営と具体的な施策展開を図っていくため、今年度から現行の総合計画を改定する必要があるという判断に至りました。

これから作る新しい総合計画には、これまでの取組、すなわち人口減少社会と超高齢社会の到来によって直面している課題に対して、近隣の 23 の市町が一緒になって経済圏域を活性化していき、圏域全体の人口 200 万超を維持するという取組と、「自助」、「共助」、「公助」の適切な組合せによって施策を展開していくという取組を行っていますが、これらの取組の基本思想は持続可能性の追求であり、その成果を生かし、広島の地域特性や歴史・文化を踏まえ、あらゆる分野において、これまで以上に市民社会や市民福祉の向上といったことに資する実効性の高い施策を盛り込んでいきたいという思いでいます。

その際、こうした取組の上で欠かせないことは、従来の全国一律型の施策展開ではなく、我が市にとって真に必要な施策を主体的に企画立案していき、必要に応じて国や県の施策を取捨選択し、活用していく、という視点も欠かせないと考えています。

本市としてはこうした視点に立ち、全庁を挙げてこの総合計画の改定作業に取り組んでいきたいと考えていますので、委員の皆様方におかれましても、この度の総合計画審議会の運営にぜひ御協力をいただき、今申し上げた思いが完成するような御支援、御援助をお願いできればと思っています。

どうかよろしくお願いします。

〔会長、副会長の選出〕

事務局（金森企画調整部長）

本来なら委員の皆様のお紹介を申し上げるべきところだが、時間の制約もあるため、お手元の委員名簿と配席表をもって御紹介に代えさせていただきたい。なお、本日は委員総数 25 人に対し、24 人の御出席となっている。

それでは、これより議事に入る。

会長、副会長を選出していただくまでの間、事務局で議事を進めさせていただく。

お手元の会議次第の議事「(1) 会長、副会長の選出」についてお諮りする。本審議会の会長、副会長については、広島市総合計画審議会規則第 5 条第 1 項の規定により委員の互選によって定めるとされている。皆様の中で会長、副会長に立候補される方、あるいは御推薦される方があれば、御発言をお願いする。

フंक委員

前回の総合計画を改定したときも委員を務めたので、その経験を踏まえ、会長と副会長を推薦させていただきたい。審議会の進行又は取りまとめを行う会長、副会長は、前回のことを知っておられる方がよいと思う。そのため、前回専門部会の副部会長を務められた、藤原委員に会長をお願いしてはどうか。また、前回委員であった、村上委員に副会長をお願いしてはどうか。お二人とも御見識が高く、広島市の他の審議会委員の御経験があり、広島市の施策にもお詳しいため、適任だと考える。

事務局（金森企画調整部長）

ただいま、フंक委員から「会長は藤原章正委員に、副会長は村上須賀子委員に」という御意見があったがいかがだろうか。

（異議なしの声あり）

事務局（金森企画調整部長）

それでは、皆様の御賛同をいただいたので、会長は藤原委員に、副会長は村上委員をお願いしたいと思う。

ここで、会長、副会長に一言御挨拶をいただきたい。前の席へお移りいただきたい。
それでは、藤原会長、一言お願いしたい。

〔会長、副会長あいさつ〕

藤原会長

この度は、会長職を任命され、大変責任を感じている。この総合計画審議会のアウトプットは広島市の方向性を決め、あらゆる計画の基礎となる極めて重要な位置を占めるものだと認識している。微力だが全力を尽くしたい。

最近、海外等から広島市に訪れる方が多く、広島市のことを知っている方が国内のみならず世界中にいらっしゃることを痛感する。広島市の良いところも、悪いところも世界中に筒抜けになる時代になっている。この広島市の伝統や文化を継承するだけではなく、もう一歩前に進めることができる総合計画になれば良いと思っている。

事務局（金森企画調整部長）

それでは、村上副会長、一言お願いします。

村上副会長

私は 30 年ほど広島市立の病院で医療ソーシャルワーカーをやっていた。そのとき、難病の方や、高齢者の方、被爆者の方々の相談に乗っていたが、今や時代が変わり、そういう方々が地域で暮らしていく時代になった。地域で丸ごと支えていくというシステムが必要な時代になっている。これは正しく、まちづくり、地域づくり、それから都市づくりということだと思う。広島市でケアが必要な人たちも安心して暮らしていける、そういう広島市の総合計画に関わらせていただくということを、有り難く受け止めている。

藤原会長、皆様方と共に、すばらしく、住みたいと思える広島市となるよう努力し、一緒に知恵を出していきたいと思う。

事務局（金森企画調整部長）

それでは、以後の議事進行を藤原会長にお願いします。

〔広島市総合計画の改定についての諮問〕

藤原会長

それでは、議事に入らせていただきたい。お手元の議事次第の資料に基づいて進行させていただきたい。

まず、議事「(2) 広島市総合計画の改定についての諮問」である。本審議会は、広島市総合計画審議会規則第 2 条の規定により、市長の諮問に応じ、広島市総合計画の策定に関する重要な事項について審議すると定められている。

ここで市長から諮問を受けたいと思う。

松井市長

広島市総合計画策定に関する規則第 12 条の規定に基づき、広島市総合計画基本構想及び基本計画の改定について諮問する。よろしくお願いします。

（諮問書を会長に渡す）

藤原会長

ただいま、市長から総合計画改定の諮問を受けた。今後はこの諮問に基づき、本審議会で総合計画改定の具体的な審議を行っていく。

（市長 退席）

〔議事〕

藤原会長

それでは続いて、議事「(3) 広島市総合計画審議会の運営方針等について」に移りたい。
議事資料1「広島市総合計画審議会の運営方針等」について、事務局から御説明をお願いします。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

（配付資料により説明）

藤原会長

事務局から御説明いただいた運営方針等について、何か御質問、御意見等はあるか。

（質問・意見等なし）

藤原会長

特にないようであれば、広島市総合計画審議会の運営方針等について、原案どおり決定してよろしいか。

（原案どおり決定）

なお、皆様の専門部会の所属先及びそれぞれの専門部会の正副部会長の選任については、会長に一任することであるため、副会長と相談をしながら、後日皆様に文書で御報告をさせていただきたい。

続いて、議事「(4) 広島市総合計画の改定に当たっての基本的事項及び中核課題等の検討について」である。

それでは、議事資料2「広島市総合計画の改定に当たっての基本的事項」について事務局から御説明をお願いします。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

（配付資料により説明）

藤原会長

議事資料2について御説明をいただいた。特に、議事資料2の最後のページにある、直面している課題、そして今後、課題に対してどう対応策を取っていくのか、これについての漏れはないかということについての御意見をいただきたい。自由に御発言をお願いします。

西川委員

論点整理の中で、「国際平和文化都市の具現化」という言葉があるが、「課題に対する対応策を検討する上で念頭に置くべきポイント」の中で、国際化の観点から見たときに、具体的なイメージが浮かんでこない。直面している課題についても、国際情勢の混迷などというように、課題の中に「国際」という言葉があるが、全体的に、国際平和文化都市という大きなイメージに対して、広島市を国際都市としてこれからどうしていくのか、というところがよく見えない。

また、審議会で広島市の総合計画を練っていくということだが、本来は市がこういう計画を立てるものだと思う。市が立てた計画を我々が審議するのか、我々自らこの市の総合計画を作り上げていくのか。

藤原会長

御質問について、事務局から回答をお願いします。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

最終的にこの計画は市で策定するものである。前段として、審議会で皆様に審議していただき、議会で議決を経る必要があるということである。基本的な施策の案としては、事務局からその都度御提示をさせていただくので、その内容について審議をしていただくということである。

西川委員

広島市が考えている施策や方策について、審議会で審議をするということによろしいか。

藤原会長

先ほど、市長から諮問をいただいた。審議をする上でベストなメンバーがここに集まり、審議会を構成しているので、ここで皆さんの御意見を反映させたものを答申として返すことになる。その後、市がそれらをどう生かしていくか、検討していただく。

小溝委員

西川委員から平和の話が出てきたので、それに合わせて何点か申し上げたい。

国際平和文化都市の具現化には、活動実績も踏まえ、今後更に深めていける様々な可能性がある。

一つ目は、平和と文化、環境といったものについての連携をもっと深める必要があるということである。松井市長が市長になってから6年ほどの間に平和首長会議の加盟都市数が4,500から7,500まで増えている。これは、広島から発しているメッセージが、非常に高い国際的な関心を生んでいるということであり、平和の問題は、環境を考える上でも持続的成長を考える上でも、非常に重要だということが認識されていることの表れである。国連でSDGsが2015年に新しくできた。それ以前のものには平和の要素が含まれていなかったが、SDGsには、平和の要素がしっかりと組み込まれている。これは、持続的成長に関わる重要な要素として、平和が不可欠であることが明確に認識されるようになってきたということである。

また、二つ目に世代を超えた平和の展開がある。何のための平和か、何のために被爆体験を話すのかということであるが、被爆者の方の話を聞くと、自分たちや亡くなった方々が、豊かで多様なものと助け合うことができる人生を送れなかったのも、若い人たちには、多様性を持ち、国境や文化等を越えて、すばらしい人生を歩んでほしい、というメッセージが強く含まれていることに気が付く。誰にもこんな苦しい思いをさせたくないという思いと同時に、若い人たちにはもっと多様性を持ち、それぞれの違いを尊重しながら歩んでほしいという強いメッセージが世界の若者の心に響いているのだと思う。ここに、掘り下げれば、極めて重要な世代を超えた平和文化創造への可能性を見ることができる。

三つ目に、国境を越えた展開がある。例示で申し上げますと、平和記念資料館が非常に高い評価を受けているということがある。カザフスタンの大統領が訪問された際、広島県のある幹部が「被爆の実相だけではなく、広島の復興の姿も見てほしい」ということを言われたが、それに対するカザフスタンの大統領のお答えが非常に示唆に富んでいたもので、紹介させていただく。「海外の人がこの栄えた都市を見ても、広島の復興の姿とはどういうものだったかは分からないだろう。だからこそ、原爆ドームや平和記念資料館があることで、広島がどのように復興を遂げてきたのかが分かる。」と、平和記念資料館の非常に高い価値を認めておられた。

また、イランには1,100強の都市しかないが、平和首長会議の加盟都市がこの十数年間で30都市から990都市まで増加した。何故これほどまでに増えたのかには明確な理由がある。イランのテヘランにはサダム・フセインの化学兵器攻撃による被害者の救済と再発予防を訴える平和博物館があるが、この博物館が作られた背景には、化学兵器の被害を訴えるボランティア団体の方々が20年ほど前に広島に来た際、平和記念資料館を訪れて大変な感銘を受けたことが影響している。この方々が中心となり、広島の平和記念資料館をモデルとしてテヘランの平和博物館を設立したという。さらに、被爆者の発する、加害者への復讐ではなく、誰にもこんなつらい思いをさせたくない、という願いに深く感動され、このメッセージを世界に広げる「平和首長会議」の目的と活動に深く共鳴し、テヘラン平和博物館の館長（ボランティア）が中心となって、イラン全国をまわり、加盟促進をし続けて下さっているおかげで、イランの平和首長会議の加盟都市は増えたのである。さらに、この平和博物館の関係者は、極力独立性を保つ努力をしつつ、広島の被爆者と同様に「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という普遍的なメッセージを発信しようと努めていると聞く。

以上のことを整理すると、(1)平和と文化、あるいは環境というものの関連性というのは非常に深いものがあると考えられる。これをしっかりする必要があるということと、(2)世代を超えた連携や(3)国境を越えた広がりを大切にするということである。

この三つの要素全体に関係する可能性の一例を紹介すると、世界、特にヨーロッパの学生や若手芸術家の中には、広島の被爆体験と平和の取組に示唆を受け、自分も広島に身を置いて、そこで感じたものを大切にして芸術作品を作りたいという需要が存在すると聞く。広島にも少子化や過疎化で活性化が必

要な地域があり、また、学校合併や廃止で不要となった建物がある。例えば、このような空き家などを活用して、国境を越えて文化的で創造的な若い人たちを受け入れ、一緒にまちづくりをすることもできるのではないかと思う。

二番目に申し上げた世代を越えたつながりについて補足したい。市が実施している被爆体験伝承者の制度はこのための一つの取組だ。しかし、これだけではなく、まだ世界どころか日本の一般常識にすらなっていない核の脅威について身をもって知っている先覚者である被爆者の方々がまだ御存命であるので、この人たちのメッセージを若い人たちに伝えることは重要である。被爆者の残酷な悲劇と普遍的な平和の願いを受け止める度量を持った優秀な若者が、世界の多様な人々と協力して作る未来は信用することができる。こうしたことから、世代を越えた交流を促進する必要があると思う。

以上要約すれば、平和と文化、環境の連携を高めること、国際的な連携を高めること、そして世代を越えた交流を深めることという三つの側面が、平和文化都市の内実を深めていく上で、今後の重要なテーマになってくるのではないか。

藤原会長

今日は1回目の審議会なので、総合計画の根本に係るコンセプトのようなところを議論いただけたらと思う。その他いかがだろうか。

梅田委員

「(3) 課題に対する対応策を検討する上で念頭に置くべきポイント」だが、「広島らしさ」を感じられるものを入れてはどうか。例えば、広島市の平和に関する論点や、未来志向の都市であるというところである。また、フラワーフェスティバル等で、花や植物を活用している都市なので、これら3点を織りまぜた対応策も、「広島らしさ」を追求するために入れてはどうだろうか。

また、課題についてだが、少子化・高齢化が進む中、15歳から30歳の人口が特に減少している背景には大学等の問題もあると思うが、例えば、他都市から人材を供給するための大人の生涯教育の推進なども、「人づくり」という未来志向の観点の対応策として念頭に置いて考えてはどうか。

藤原会長

その他いかがだろうか。

フंक委員

国際的な視点から言うと、日本全体で外国人の人口が増えていることが挙げられる。広島県全体で外国人の観光客が増えているが、市の方も恐らく外国人の人口が増えていると思う。「広島市に関する基礎的データ」の資料から探してみたが、そのデータは見当たらなかった。外国人の話題は少子化を原因とする労働力不足への対策としても取り上げられている。現在、確実に外国人の人口は増えているが、税金を納めているにも関わらず、外国人には投票権がないため、外国人が住みやすい環境を作ろうという発想を持っていない。そういう問題点があるかと思う。そのため、直面している課題には、多文化的な都市であるとか、国際的な雰囲気のある都市であるとか、そういった観点からの課題を入れていただきたい。

藤原会長

その他いかがだろうか。

若本委員

この資料を読んでも、なかなかイメージが湧かないと思う。日本の経済成長というのは、模範となる国や都市をベンチマークとし、追い付こうとしていったところがあると思う。この「広島市に関する基礎的データ」の資料では国内の各都市のデータしかないが、国際平和文化都市、また全国画一的な都市ではない、というところを目指すのであれば、例えば、姉妹都市であるハノーバー市など、海外の都市の中で我々が目指すべき指標があると思う。どのような都市イメージを目指すのか、というベンチマークがあった方が、我々もイメージをしやすい。福祉の環境については北欧のこのような都市が、こういった指標を持ってやっているが、広島市ではここまでしかできていない、それに対して、埋めるべきも

のは何か、という議論をしていくともう少しイメージが沸きやすいのではないかと。少子化・高齢化が進み人口が減る中、どうしたら良いのかという課題があるが、解決のためのイメージや指標がないという印象を受ける。

藤原会長

その他いかがだろうか。

福田委員

個人的に特に気になっている課題について述べさせていただく。人口は全国で減っているが、「住んでいる人の数」という捉え方だけではなく、いろいろな切り口で人口を整理していく必要があるのではないかと。「観光人口」と言っても、滞在期間が1日だけの人もいれば、1週間から1か月以上滞在する人もおり、いろいろな種類があると思う。「関係人口」という言葉が使われているが、広島に関係する人々にはどういった人がいる、という観点がこれからは大切である。そういう意味では、周辺市町に住む人も、住んでいない人も含めて計画の中で捉え、減っていく事柄だけではなく、増えている事柄についても捉えていく必要があると感じた。今の時代は流動的に、短期間にいろいろな場所へ移動できる時代である。そういう意味で、人の動きを捉えるということが必要であると思う。

また、「自助」「共助」「公助」の適切な組合せ」というのは本当に大事なことだが、適切な組合せは難しいことであるし、特に「共助」は非常に課題であると感じている。「広島市総合計画の改定に当たっての基本的事項」の資料でも町内会の加入率の低下などに触れている。そういう意味で、少しこれまでとは違った切り口で、地域のことを考えていく必要があるのではないかと。エリアマネジメントという言葉があるが、地域管理という意味で、自分たちの地域をどのように面倒を見ていくかを考えていかなければならないのではないかと。

これと関係して、広島市は広く、いろいろな場所と課題があるという意味で、計画自体を一律にやっていくやり方は、今後は通用しないのではないかと。広島市の中も一律ではないという捉え方が必要である。これまでの総合計画には、区別計画というのがあるが、区の中でも区という切り口とは異なる課題が各地域にあると思う。そういった地域密着型の捉え方ができないかと。

石田委員

私は、高校まで広島で過ごし、今は国の様々な機関に携わる中で、文化振興に関することを仕事としている。広島のような団体とも関わらせていただいております、それに関する発言させていただきたい。

資料中の「目指すべき都市の姿」で「国際平和文化都市」が挙げられているが、ここには「国際」「平和」「文化」「都市」という四つの言葉が入っている。私は、特に「文化」に関わる発言を今後していくことになるが、自身が県外にいて広島を見たとき、広島ならではの文化の発信は十分だろうか、ということについていつも考えている。

文化と言っても、様々な見方ができる。食文化、生活文化といったことから、芸術文化など、いろいろなカテゴリーがあるが、文化というのは、人の暮らしそのものであると思う。広島で築く文化の分析というものをこの機会にきちんとする。すなわち、広島の文化という財産の分析、又は広島の文化的機能が持っているものは何か、という分析をした上で、様々な課題に取り組むことで、それぞれの課題に対する解決の糸口を見付けられるのではないかと。

それでは、広島の文化的機能とは何か。例えば、ここに集まっておられる大学の先生方や、大学自体もそうである。文化的なホール、芸術団体、スポーツ団体、様々なプロフェッショナルな団体もあると思う。そういったものが、平和の取組とどう関わっていき、国際化に役に立っていけるのか。そういったものを捉えていくことが今後必要になると思う。「(3) 課題に対する対応策を検討する上で念頭に置くべきポイント」として、広島が持つ文化機能の分析、これを御提案させていただく。

藤原会長

その他いかがだろうか。

海堀委員

皆さんも報道などで御存じのとおり、広島では平成26年に豪雨による土砂移動現象を原因とする8.20災害が発生し、77人もの犠牲者が出た。私は、全国的に起きている土砂移動現象と比較すると、

自然現象としての規模はそれほど大きくなかったにも関わらず、多くの犠牲者を出した甚大な災害であったと考えている。そして、多くの犠牲者が出た構造について、非常に問題視している。

災害が起きた直後から、多くの被災者の方、生き残られた地域の方々をお願いをしていることがある。それは、先ほど説明していただいた平和の取組と同様の事柄である。平和の取組では、被爆者の方が自身の体験を直接語り、二度と同じような不幸なことを起こさないように、という強い気持ちで皆が取り組んでいることが、良い結果につながり、賛同者が増えているのだと思う。これに対し、災害に関する被害については、地域の中で完結してしまい、なかなか外まで伝わってこないのが現状である。

私は、平和に関する取組を参考に、災害発生直後から、地域の人に今回の不幸な御経験の語り部になっていただきたいをお願いをした。同じような土砂災害の危険性がありながら、災害は縁遠いものと思っている方は、広島市の中だけでなく、他の地域にもたくさんいる。こうした取組は広島県でも取り上げていただき、現在は語り部プロジェクトとして、他の場所でも役立てていただいている。安佐南区・安佐北区で起きた災害は不幸な経験だったが、二度と同じような経験はしたくないという気持ちを、広島市が発信していくという方向に進んでいくことを願っている。

平和の取組に比べれば小さい話かもしれないが、この経験はどこでもできるものではない。広島での経験を基に、他の地域にも防災に関する意識を広げていくきっかけになるのではないかな。資料では、自然災害に関する課題として抽象的にしか挙げられていないが、もっと具体的に取り組んでいけるものが書き込めるのではないかな。

藤原会長

その他いかがだろうか。

藤谷委員

長期計画に別のところで携わったことがあるが、この基本的な考え方に当たっては、現在から10年後を見るのではなく、10年後から現在を見るという観点が大切なのではないかな。

具体的に言うと、10年後の社会がどのようなになってるかということである。例えば、空飛ぶ自動車というものが既に存在しており、航続距離も800キロぐらいあるといったことが実現している社会かもしれない、ということから考えていく必要がある。産業は一体どのようなになっているのだろうか、広島産業というのは今と同じだろうか、もしかすると10年後は大きく変わっているかもしれない、ということを考えていく必要がある。社会構造で言えば、より格差がある社会になっているかもしれないということを考えていく必要がある。個人のライフスタイルの多様化については「直面している課題」の中で書いているが、産業の潮流であるとか、社会構造の変化を考え、10年後はこういうことになっているかもしれないということを考え、どうする必要があるのかを計画の中に入れていくべきではないかな。

基本的に少子化・高齢化は止まらないと思うが、2030年の人口を想定したとき、どうすれば良いのかというところで逆算して考えていくということが必要になってくるのではないかな。ある程度は少子化・高齢化を止められるとは思いますが、この漸減傾向をゼロにするということは難しいのではないかなと思う。しかし、それに対してこういうことをやっていこうと考えていく必要があるのではないかなと思う。

藤原会長

いずれの意見も示唆に富んでおり、深いものであると感じた。

総合計画審議会は、基本構想と基本計画を作る審議会である。総合計画の各分野に部門計画があり、さらに、その中に具体的なマスタープランが存在する。その大本のコンセプト、基本的な考え方をここでは議論していただき、その根拠として、今日いただいたことの説明力を高める必要があるということを感じた。キーワードを幾つかいただいたが、いずれも大変重要な話である。次回の審議会以降、必ず取り上げるように事務局にはお願いをしていきたい。

吉田委員

「直面している課題」の中で少子化・高齢化や人口減少、地域コミュニティの活力の低下やライフスタイルの多様化などの課題に共通しているキーワードとしては、やはり人材の育成という観点である。人が減るということ自体には、子どもをたくさん生むことができる環境の整備が必要だと思うが、この整備には時間が掛かるので、少ない人数でもいかにまちを活性化していくかという意味で、人材の育成

や人同士のつながりの強化が大切であると思う。

先ほど事務局の説明でもあったが、現在の施策は若者や高齢者などを対象としたものがどうしても多い。弱い者を支えていくことが行政の基本的な姿勢であるとは思いますが、広島には優れた企業や学術機関、研究機関等がたくさんある。こういうものに、いかに行政に参加してもらうかという観点は非常に大切である。未来を担う子どもの育成や教育ということもあるが、若い人材、あるいは現役世代の人材が持っている潜在的な力を行政に生かしていくという観点や、大人を対象にした教育や学び直しについての啓発の取組も必要であると考えている。

「200 万人広島都市圏構想」との関係で言うと、中四国地方を引っ張る力、潜在力が広島には非常にあると思う。ものづくりや研究機関の拠点が非常に多いため、こういった都市機能を高めながら、広島の魅力を更に広げていくことが必要である。

観光では、インバウンド観光のことがよく取り上げられるが、「200 万人広島都市圏構想」を考えたとき、広島市域あるいは周辺市町を含めた圏域内の交流の活性化という観点も必要である。

藤原会長

今日の意見の言い漏れたところ、あるいは付け足したいことは、事務局に送っていただきたい。次の会議までに整理をし、前回行った議論に立ち戻ることがないように配慮したいと思う。

私も委員の方々の御意見については、まだ十分理解できてないかもしれないので、必ずフィードバックをしたいと思う。

一つだけ確認をさせていただきたいことがある。「(3) 課題に対する対応策を検討する上で念頭に置くべきポイント」の一番目に「200 万人広島都市圏構想」と書いてある。これはかなり意味を持った言葉であると思う。広島市だけではなく、広島広域都市圏で課題に対応しようということであるとするならば、極端な話をすると、広島市の人口が減っても良いが、圏域全体で見たときに人口が増えれば良い、広島市の産業や文化も重要であるが、圏域全体として盛り上げ、圏域全体として高めることが、広島市にとって持続可能な成長につながるという、今までの広島市の総合計画には少し欠けていた考え方が盛り込まれている。ここのところは重要であるので、今後の議論の中で深めてゆきたいと思う。広島市の総合計画というのは広島市の計画ではなく、広島市とその周辺地域を含めた 200 万人都市圏構想の観点を改めて認識して、各専門部会でも議論していただくし、審議会本体でも議論させていただきたい。

本日は、「平和」、「文化」、「環境」、「広島らしさ」、「多文化都市」、「イメージ」、「人材」、「産業」、「地域密着」、「防災」など、たくさんのキーワードをいただいた。改めて整理をさせていただく。

時間の関係で本日の議論については、この辺りで打ち切らせていただく。今後、中核的な課題については継続して議論をさせていただきたいと思う。

資料や今後の審議会での取組等について、御要望、御意見はないだろうか。

(特に意見等なし)

ないようであれば、本日の審議会はこの程度にしたい。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

本日の意見の整理をしたものをお送りさせていただく。その際は、御確認をお願いしたい。先ほども説明があったように、言い足りない御意見については事務局にお送りいただきたい。

次の日程についてであるが、第 2 回審議会は 5 月頃ということで、具体的な日程を本日はお示しすることができないが、会長・副会長と御相談の上、改めて皆様に日程調整をさせていただく。

専門部会についても、専門部会の部会長と御相談の上、日程調整をさせていただく。

事務局からは以上である。

藤原会長

次の審議会は、年度を越えて 5 月頃を予定しており、専門部会は 7 月頃から始まる。各委員においては、時間を割くことになるが、ぜひ建設的な御意見を今後もいただきたい。それでは、本日の議論はこの辺りとする。